

トリガーポイント鍼療法

森田義之

・なぜMTP（Morita style Trigger Point therapy）なのか？

鍼治療は、流派や個人の技量によって同じ症状でも治療効果に差があります。流派や個人は得意とする疾患があり、不得意な症状で治療を受けた場合は患者様にとっては不幸なことです。もし症状を早く楽にできる治療法を知っていればどうでしょうか？患者様も症状が早く良くなり、自分自身の治療の幅が広がることで治療が楽しくなるのではないのでしょうか？弟子の中にも基本は中医学で、痛みシビレはMTPで治療するといったハイブリットな先生方も増えています。

昔ある先生から「経絡治療は10万人診たら一人前」と聞いたことがあります。それが本当かどうか私は判りませんが、多くの患者のパターンをデータとする事は確かなようです。一方トリガーポイント鍼療法はどうかというと「解剖学と生理学の知識と簡単な技術力」があれば一般的な患者は効果をあげることが出来ます。

ですから初心者鍼灸師や古典鍼灸しか知らない先生でも学習しやすい形といえます。そして、MTPは皮下における鍼のコントロールに特化した「トリガーポイント鍼療法」であること、手技やマッサージ等を行わず「鍼」で結果を求める治療法なのです。

トリガーポイント鍼療法が得意とするのは「痛み」「シビレ」になります。特に「動かして痛みの変化がある症状」は良導絡よりも優れていると思います。ぜひ臨床で試してください！

医師の間でも「トリガーポイント」「筋膜リリース」と言った言葉が多く使われるようになり、現代鍼灸との関連も強まってきました。良導絡とMTPは全く別な考え方の治療法ですが、東洋医学から現代医学に感覚をスイッチするのも楽しいかもしれません。

●トリガーポイント鍼療法の特徴

- ・痛み、シビレに特化した治療法
- ・問診の物差しは「関節の動き（筋肉の動き）」
- ・「どこが痛い？」ではなく、「どう動かしたら痛い？」